

2022 年度秋季の堅果類等の豊凶調査結果報告

島根県中山間地域研究センター

鳥獣対策科 小沼仁美

1. 背景・目的

秋季のツキノワグマの出没の多寡は、山の中の堅果類等の餌資源量に大きく影響するといわれている。本調査は、秋季におけるツキノワグマの主要な餌資源である堅果類等の豊凶状況を調査することで、行政等の迅速な対応が可能となるように、また、被害を抑制するために注意を促すことを目的に実施する。

2. 結果

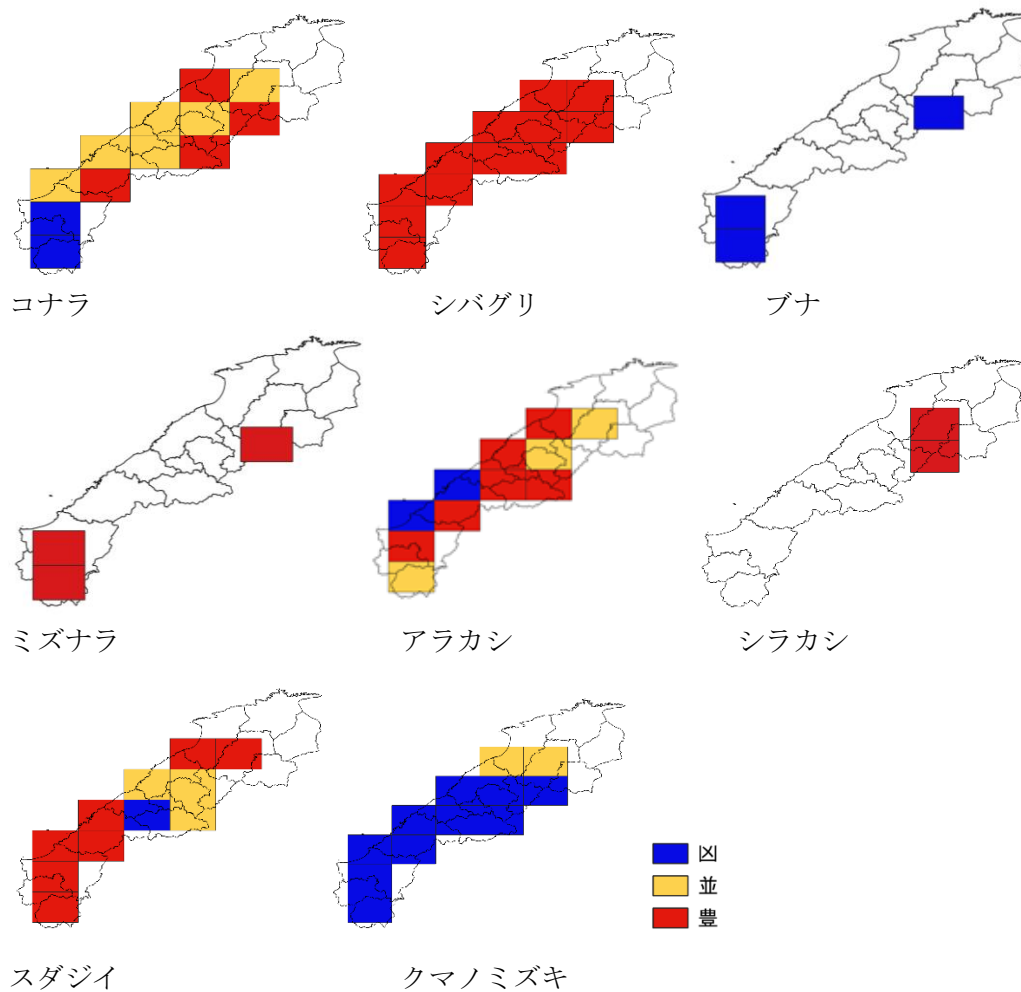
地域（20 kmメッシュ）ごとに豊凶状況（図）をみると、島根県に広く分布するコナラは、益田市、津和野町および吉賀町が凶作であった。高標高域に分布するミズナラは豊作であったが、ブナは凶作であった。アラカシは、浜田市、江津市および益田市の海岸沿いが凶作であった。スダジイは、江津市や邑南町、川本町等の県中央部が凶作であった。クマノミズキは、島根県ほぼ全域において凶作であった。

島根県の全域における堅果類等の豊凶状況は、シバグリ、ミズナラ、アラカシ、シラカシおよびスダジイは豊作、コナラが並作、ブナおよびクマノミズキが凶作であった（表）。

3. 注意事項

凶作の樹種が数多く自生している地域は、ツキノワグマは餌を探し求めて、人里に降りてくる可能性がある。地域内に、カキやクリなどの放棄果樹や生ごみなどツキノワグマを誘引するような物については、事前に撤去し、対策を徹底するなど、より一層注意して、行動いただきたい。

● 図 20 kmメッシュごとの各樹種の豊凶状況



● 表 島根県全域における堅果類等の豊凶基準に基づく評価

コナラ	シバグリ	ブナ	ミズナラ	アラカシ	シラカシ	スダジイ	クマノミズキ
並作	豊作	凶作	豊作	豊作	豊作	豊作	凶作